

様式1 (学校法人用)

令和4年6月27日

「学校関係者評価」の実施状況報告書

(宛先)

埼玉県知事 大野 元裕

主たる事務所 〒351-0014

所在地 埼玉県朝霞市膝折町1-16-17

学校法人名 朝霞学園

理事長名 佐藤 秀弘

電話番号 048-461-0240

幼稚園の学校関係者評価の実施状況については、下記のとおりです。

記

①. 実施済み

幼稚園名	
菩提樹の森	幼稚園
	幼稚園
	幼稚園
	幼稚園
	幼稚園
	幼稚園

2. 実施なし

(理由 複数回答可)

- 1 実施方法がわからない
- 2 実施する時間的余裕がない
- 3 法令上の義務または努力義務であることを知らなかった
- 4 現時点で評価を実施するメリットや必要性を感じない
- 5 その他 ()

学校評価シート（自己評価）

菩提樹の森 幼稚園

1、園の教育目標

仏教の大慈大悲の教えを基本に、学校教育法及び幼稚園教育要領に則り、幼児の心身の健全な発達の助長をめざす。

○人をたいせつにする子…生命（いのち）を尊重し、正しきを見て絶えず進む子どもを育てる。

○すすんで行動する子 …ものごとを自主的、創造的に考えていく子どもを育てる。

○健康で朗らかな子 …心身ともに健康で、何事も最後までやり遂げる子どもを育てる。

2、具体的な目標や計画

今年度も評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することにより、園長はじめ幼稚園教諭自らが客観的に自園を見る目を養い、教育内容の振り返りや改善、施設環境の改善、地域の中の幼稚園としていかなる存在かを客観的に観て、主体的に取り組んでいくことを重点項目とする。

・教育課程指導分野…幼稚園の教育の根幹となるため、評価項目に選定。

・教育目標保護者連携…子どもの健やかな育ちのためには保護者との連携は不可欠であるため、評価項目として選定

・保健管理分野…「保健管理」と「新型コロナウイルス感染症対策」の評価項目を一体化し、園児の安全対策をとりつつ行う教育の充実の模索のため選定

・教育環境整備分野…園児が遊びを通して学ぶ空間としての環境は重要であるため毎年の評価項目に選定。

・預かり保育…コロナ禍に於いて、長時間の預かり保育の対応について、また、どのように子どもたちを受け入れることができるかは重要であるため評価項目に選定。

3、評価項目の取組及び達成状況

評価項目	結果 (※)	結果の理由
教育課程指導分野 仏教保育の理念のもと、園児一人ひとりが何事においても意欲的に取組めるように援助し、自律的な精神を養う。環境（人的・物的）を通しての保育を実践する	A	<ul style="list-style-type: none"> ・先生は、園児一人ひとりを大事に守り育てていく仏教保育を実践し、園児のあるがままの姿を受け止め、愛情をもって関わっている。 ・先生は、園児同士が互いに個性や多様性を認め合い、共に育つことができるよう、働きかけている。 ・先生は、園児が主体的に、喜びをもって遊び、充実感や達成感を味わえるよう に援助している ・先生は朝の活動の中で、唱歌をとおして挨拶、合掌礼拝し、お祈りから一日を始めている。共に祈る中からも、仏教保育教育の共通理解につながる願いが 込められて

		<p>いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月に一回の礼拝や三仏忌などの行事を通して、宗教情操教育の中で、何かに見守られていることを感じ、仏教保育について理解を深めてもらう機会を設けている。 ・日本仏教保育協会編集の「ほとけの子」の配布を通して、仏教保育の内容理解に努めている。
<p>○教育目標保護者連携</p> <p>園の教育方針について理解を深め、園児の心身の健全な発達を願い、家庭との連携を図る。保護者理解と個別対応について心掛けるには（怪我の報告・手紙の返信・日々の連絡）</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度もコロナ禍で園生活を保護者にあまり見せることができなかつたのもあり、担任の思いと、保護者の思いが上手く伝わらないことがあった。気持ちを共有できる様に心掛け、信頼関係を築きあげる難しさも経験した。感染防止対応をしながら可能な限り参観日（運動会・発表会・作品展等）を設け、子どもの日頃の姿を見てもらった。 ・降園時、教員が保護者全体に向けて一日の活動や園児の姿、出来事、願いなどを伝えている。それによって園児への思いを保護者と共有している。時には、園生活を送る上での悩み、子育て相談などを受け、共に話し合っている。バス通園の保護者には電話やお手紙などで子どもの様子について伝えている。 ・動画配信、対面個人面談、保育時間中に1日2クラスずつの懇談会を行い、園児一人ひとりについて話し合い、方向性（願う育ち、援助方法など）を互いに模索している。
<p>○保健管理分野</p> <p>日常の健康管理、疾病予防の取組、園医との連携による健康管理・疾病予防の取組、新型コロナウイルス感染症予防への取組</p>	<p>A</p>	<p>○園児一人ひとりの健康状態を把握し、疾病予防に努める。園児健康/家庭調査票（毎年度、保護者が記述）にて、園児一人ひとりの健康状態、持病、身体的特徴、既往歴などを把握している。特に身体的・精神的特徴を持った園児（痙攣、心臓病、発達障害、アレルギーショック症状等）については、全教員が会議等で定期的に成長や課題について話し合い、必要な対応や援助について共通理解している。</p> <p>○教員の対応できない怪我、疾病等について園医に相談して最善の対応をする。また、園児の健康状態については、教員が登園時に視診を行うと共に、保護者からも随時話を聞いている。アプリを使い家族全員の健康観察に配慮している。特に保育中は、園児の体調の変化に目を配り、検温・保護者に連絡等を行っている。降園時、帰宅後も保護者と連絡を取り、園児の健康状態の把握をしている。</p>

	<p>○新型コロナウイルス感染症の感染予防に努める。</p> <p>基本的な定期的な手洗い、マスク着用、保育中は園児の体調の変化に目を配り、検温、保護者に連絡等の対応をとっている。また、降園時、帰宅後も保護者と連絡をとり、園児の健康状態を把握している。継続的に新型コロナウイルス感染予防につとめ注意喚起を行っている。教職員の消毒負担軽減のため、ドクタークリーンという消毒剤を一日1回の消毒で済むよう工夫している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員はアレルギーショック症状の緊急対処法を救急法講習（AED、CPR、エピペン使用法）を日本赤十字社に依頼し幼児ダミー人形を使用しより実態に即した研修を行った。
<p>○教育環境整備分野</p> <p>施設整備の安全、維持管理、充実のための点検、整備、拡充を行い、子どもの育ちに適した遊具、教材の充実を行う。保育者の教育、研究のための環境の充実を行う。</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・70周年記念事業の一環で、スウェーデン大型遊具を建設。人工芝を敷き、子どもの体力知力向上のために尽力した。 ・植物環境の充実を図るために、プランターにキュウリ、トマト、なす、オクラなどの夏野菜の栽培を行った。 ・園舎入り口の生き物コーナーの生き物の世話、小亀の飼育を行い、子どもの生き物に対する興味関心が育まれるよう環境を整えた。 ・毎日、登園前に教員がグループごとに安全確認(施設整備、遊具等の点検など)、園児を迎え入れる為の準備(保育室環境、清掃など)を行う。また、保育後は教員で保育室、廊下、手すり、園庭等の清掃・消毒作業をしている。 ・園庭、グラウンド、境内の掃除を毎日行っている。 ・自然災害が起こる事が予想される場合には、事前に対応策を講じ、被害を最小限にとどめるように努めている。また、災害発生時には、園児が安全に過ごせるように復旧作業を行い、園舎・園庭の安全確認を行ったうえで園児を迎え入れている。 ・ピアノ調律、ポータブルスピーカーを更に4台を購入し教育環境を整えた。 ・コロナ対応の為、アルコール手指消毒剤、飛沫アクリル板、24時間換気徹底、高機能空気清浄機のレンタルなど行った。

		<ul style="list-style-type: none"> ・遊具設備は随時修繕を行っている(ロープ、木製FRP遊具、保育室の天井、扇風機、エアコン、お手洗い・保育室の扉の緩み、トイレメンテナンス)。また、適宜、それらの保守点検も行っている(空気清浄機、冷蔵庫、AEDなど)。 ・教職員が、日頃から樹木の剪定や草の刈り取り、防虫剤散布をしている。高所は専門家高橋造園に依頼。
<p>○預かり保育分野 保護者の実情や要望による預かり保育の実施状況</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症が継続的にまん延し、まん延防止等重点措置が発令されている期間は、預かり保育の受け入れは長時間になるため、原則新2号認定の園児のみ受け入れることとなった。例外的に1号認定の方も受け入れるよう柔軟に対応した。20人前後の受入れ状況で推移し、預かり保育室内の三密は回避できていた。

4、具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
A	<p>今年度は、教員全員で学校評価を見直し、具体的な課題意識をもって保育を行うことができるよう、スタートした。評価項目としては、教育課程指導分野、教育目標保護者連携、保健管理新型コロナウイルス感染症対策、教育環境整備分野、預かり保育を選定し、全ての項目で概ね肯定的な評価が得られた。昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症の流行を防ぎ、園児が安全に園生活を送るために、保育形態の変化や保育内容の見直しを図ることが多くあった。今までできていたことに制限がかかり、保護者参加の大きな行事の縮小や、行事への保護者の参加人数に制限を設けなければならず、園生活の様子を見ていただく機会が十分に持てなかった。そのような中でも、保育者は改めて園児の姿を捉え、日々の園生活の中での集団の中での育ちや、個々の心の育ちに目を向け、保護者に伝えていくことに重きを置き取り組んだ1年であった。しかし、十分にその取組ができていたかどうかは不透明である。園児の健やかな成長は、幼稚園と保護者が車の両輪のように連携してこそ成り立つものである。新型コロナウイルス感染症の感染防止を中心とした「安全管理」の取組については、園児のためにできることを細やかに行き、園児の健康的な生活を保障することができた。今後も状況に応じた対応を継続していく。各項目の継続的な努力と、具体的な取組を実現していくことが必要であると評価している。園児一人ひとりが、自主的に、共に、喜びをもって園生活を送ることができるように支え導く保育を、教員全でできるようにする。そのために、対話を大事にしつつ、各項目の改善に取り組んでいきたい。</p> <p>少しずつ、屋外ではマスクを外す活動が増えていくと思うが、先生や子どもたち同士の表情をより良くくみ取ることができるので、状況に応じて子どもの育ちを最優先に感染防止に努めたい。</p> <p>また、70周年記念事業の一つでもある、新園庭の開設と大型遊具が子どもたちの育ちにどのような効果があるのか、身体的な育みだけでなく、意欲的により挑戦的に取り組む姿勢にどのような影響があるのか検証することも次年度の楽しみでもある。</p>

○結果(※)について

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
<p>行事や教育保育内容を検討する際に、前年度の反省や改善点、申し送り事項をどの様に活かしていくか</p>	<p>行事や教育保育の在り方を教職員全員で話合う時間を、定期的にもち、じっくりと時間をかけて具体的な取り組みを考えていく。行事毎に反省会を行っているが、来年に繋げる反省と課題を出し合い正しく申し送りができるよう記録する。特にコロナ禍において、引く続き感染症対策を取りながら、ウィズコロナの状況で保護者と子どもたちの育ちをいかに共有していくかが課題である。また、前年度の取り組みをそのまま踏襲することなく、様々な研修に参加し、研修内容を幼稚園にいかにかにフィードバックするかが例年の課題でもある。担当者会議、職員会議、主任会議、反省会などは議事録に残し、次年度に正しく引継ぎができるようにし、また新たな状況の中でも子どもたちの育ちを継続的に育むことができるよう検討していきたい。</p>
<p>施設整備の安全、維持管理、充実のための点検、整備、拡充を行い、子どもの育ちに適した遊具、教材の充実を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに新設した新園庭と新大型遊具の初期メンテナンスを行い、新しいからと言って定期的な遊具点検や使い勝手の悪い部分は適宜改修していく。 ・経年劣化が見られる小型遊具から大型遊具まで、施設整備の安全、維持管理、点検、拡充を行う。木材で作られた遊具は経年劣化が伴うが、温もりがあり、本園の自然環境に溶け込むものである。 ・遊具・教材の充実・教材研究のあり方について見直す（各教室の玩具の多様な遊び方や用い方について）。 ・実際の子どもの遊ぶ姿を振り返り、よりよい援助の方法を話し合ったり、新遊具の遊び方について子どもの育ちを基本に見直す。 ・新たな保育教材の情報を収集しつつ、必要性を見極めて適宜取り入れる。
<p>仏教保育の理念のもと、園児一人ひとりが何事においても意欲的に取り組めるように援助し、自律的な精神を養う。環境（人的・物的）を通しての保育を実践する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新職員の入職もあり、改めて教職員一人ひとりの保育の専門性を高める。 ・教育課程の共通理解を教員間で深めるために、保育後のコミュニケーションの在り方や報連相の在り方をについて問題提起する。 ・コロナ禍のため対面の研修だけにこだわらず、オンライン研修も含めて、外部からの講師を招聘し、知識や理解を深める。 ・教員間で日々の実践を省察し、具体的な援助の手立てを考え合う。 ・各自がそれぞれの課題を見極め、研修会、研究会への参加を積極的に行い、研修研究内容のフィードバックの方法を検討する。

学校評価シート（学校関係者評価）

幼稚園 学校関係者評価委員会

日 時 令和4年5月23日（月）

11:00～11:00（時間）

出席者 評価委員（学校関係者）3人

評価委員（保護者）2人

1. 自己評価で設定した目標・計画、評価項目の設定は適切であったか

クラスの友達や年上や年下の子に対して親しみを持って、仲良く、優しく接する子どもたちの姿から、仏教保育の教育が行き届いていることが伺えます

・教育目標保護者連携…

コロナ禍でも行事を中止することなくできる範囲で行い、工夫していることがうかがえる。子どもたち一人ひとりの実態に配慮された環境設定がされていることで、一人ひとりを大切にしたいきめ細かい保育がなされていることがわかります。

・保健管理分野…

アプリを通したシンプルな健康観察により、園児をはじめご家族の健康状況やコロナ対策が取られている。毎朝登園時乗車時に保護者と園児の健康状態、その他様々な話ができることが保健管理上非常に有効である。また、登園後も、保護者と連絡を密に行うよう努めています。適切な連携が取れていると思われまます。

・教育環境整備分野…

新設の新園庭と新大型遊具の整備が整いどのように子どもたちが遊びこなしていくのか楽しみである。施設、設備については日々教職員が点検を行い、随時修理等が行われるように努める。また、感染症対策のために検温、手指消毒、物品備品施設の消毒備品教材の充実にも努めています。

・預かり保育…

保護者の要望に柔軟に対応し、また子どもの育ちも共有できるよう工夫している様子がうかがえる。

2. 評価結果の内容は適切であったか

概ね適切であった

3. 今後取り組むべき課題は適切に設定されているか

適切に設定されている

4. 今後取り組むべき課題は適切に行われているか

今後の取り組むべき課題は適切に行われている